

【第17回松戸市都市公園整備活用推進委員会】議事録

日 時：令和4年6月23日（木）午後2時～4時

場 所：松戸市役所新館7階大会議室

出席委員：8名（別紙名簿のとおり）

事務局：街づくり部審議監、公園緑地課課長、公園緑地課課長補佐
21世紀の森と広場管理事務所長、同所長補佐、他4名

傍聴者：0名

議 事：

1. 都市計画公園（総合公園）21世紀の森と広場パークマネジメントプラン案について
2. 答申書案について
3. その他

配布資料：議事次第、都市計画公園（総合公園）21世紀の森と広場パークマネジメントプラン案、答申書案

議事内容：

1. 21世紀の森と広場パークマネジメントプラン案について

【事務局】

- ・前回のワーキンググループからの修正点として、表紙のタイトルについて、委員長より提案され、都市計画公園（総合公園）を21世紀の森と広場の前に追記した。同じく、1頁の「1-1 新たな公園づくり」においても、都市計画公園（総合公園）を21世紀の森と広場の前に追記した。
- ・10頁の写真について、重複していた箇所があり変更した。
- ・14頁の「3）調査の結果からみる課題」の箇条書きの上から2番目について、「運営側の人手不足により」という記載を修正した。
- ・19頁の「1）みどりを活かし、みどりに親しむ場を創出します」の項目で自然観察員の存在を示すため、一番右の写真とキャプションを変更した。また、メンテナンスについて、「2）一日過ごしたくなる魅力的な空間と快適な施設を創出します」の項目の一番下の箇条書きを「老朽化した施設の改築、更新、メンテナンスによる安全・快適に利用できる公園への改善」とした。
- ・20頁の「3）歴史を感じる学びの場と共に文化を発信します」の項目のオレンジの枠の中の箇条書き2つ目を、「大学との連携による」松戸アートピクニックと修正した。
- ・21頁の「2）健康づくりの拠点（ヘルシーパーク）を構築します」の項目の一番左の写真を、乳幼児健康診査のフリー素材の写真に変更した。
- ・23頁のグレーの枠について、印象を変えるために中をクリーム色に修正した。また、図11の文字を大きくし、芸術・文化という文言を追加した。
- ・24頁の図12について、螺旋を下に一段増やし、「プランの策定」と「協働の場づくり」という内容を盛り込み、23頁の図11とつなげた。
- ・25頁の「SDGsのウエディングケーキモデル」の説明文に下2行の文言を追加し、21世紀

の森と広場との関連を示した。

【委員】

- ・今後のスケジュールとして、公園管理をどの様に進めるかなどを検討すると思うが、どの様な予定なのか。指定管理者の検討を含めて、当面の見通し等があれば教えてほしい。

【事務局】

- ・今後、作業に入る予定である。具体的なスケジュールは、未定である。

【委員】

- ・今後のマイルストーンを、優先順位を決めて示すことが大切である。そのためどの様なスケジュールになるのか。絵を描くだけではだめで、今後どの様に展開していくのかを、示さなければならない。市の予算の確保や市民等との協働が必要となる。

【委員】

- ・まずは場づくりから始める事になるのか。

【委員長】

- ・このプランでは、公園の管理を従来型の方式から、新方式に移行する考え方がまとまっている。しかし、このシステムをどう確立するのか等、基本プランを策定することについて、どの様に考えているのか。

【事務局】

- ・今後、作業部会を開催して進め、プランの内容を検討する。

【委員長】

- ・その作業部会は重要な役割を担うこととなるが、そのイメージはあるのか。また、そのメンバーは、本委員会の委員で構成するのか。

【事務局】

- ・庁内で実施が可能となるかを調整し、その後、民間との協働などを検討する。ここは丁寧に進める必要があると考えている。

【委員】

- ・この委員会には地元の方が参加されており素晴らしいことである。そこで、とりあえず社会実験をやってみてはどうだろうか。その結果や課題を整理して、多くの来園者から話を聞いた方がいいのではないか。

【委員長】

- ・今の検討委員会のエネルギーを、継承していくことが大切である。

【委員】

- ・作業項目の洗い出しなど、当面準備会等を実施して、公園緑地課と21世紀の森と広場管理事務所が同時に進めていく事ではないか。早急にアクションとして立ち上げることが必要である。

【委員】

- ・今まで21世紀の森と広場では、色々なイベント等を実施してきた。今後もどんどん実施していくべきだが、実際に実施するには、まずは簡単に出来ることから始める必要がある。21世紀の森と広場管理事務所が主体的に実施するのではなく、NPO等の民間団体と協働する事が大切である。成功体験を積み重ねて、持続可能なものにならなければならない。

い。

【委員】

- ・逆に、何が重要となるのかを見定めて優先順位を定めるべきではないかと思う。市の職員だけではなく、この委員会を巻き込んでやっていくべきである。「やれることから」というと、重要な事が後回しになり、何が重要なかが分からなくなるので、これは避けるべきである。時代の変化もあり、気合を入れてやるべきである。

【委員】

- ・パークマネジメントを実施する体制を、新たに検討する必要がある。この計画がいいものでも、既存の体制であると上手くいかない。マネジメントシステムを21世紀の森と広場で実際に動かすには、コーディネーターやパークレンジャーなどのメンバーが参画する体制づくりを考えないといけない。作業項目の洗い出しなど、とりあえずやることはいいが、少しプランニングする必要もあり、二段階で考えるべきである。

【委員】

- ・市の職員だけで実施することは難しく、本委員会の協力を得て実施していきたい。全庁的にプロジェクトチームを組織し、その下に作業部会を設けて、そこで具体的な作業を進めていきたい。

【委員長】

- ・直営方式は表に出にくいので、出来る事と出来ないことの仕分けを明確にする必要がある。現行のパークマネジメントシステムで出来る事・出来ないことを仕分けると、要求に対して新たに加える事・これからやることが分かる。これを誰がやるかなどについて、各委員から提案を求める。

【委員】

- ・18頁の表に示されている取り組みからスタートしてはどうだろうか。また、23頁のパークマネジメントシステムの内容をもっと具体的に考えてみてはどうか。

【委員長】

- ・18頁の表について、現行の管理方式で何が出来ているかを翻訳する必要がある。

【委員】

- ・財政的な支援が必要である。市役所の中で実施することは難しく、外からの動きの方が新しい動きとなる。既存のものだけではなく、外からの声を受け取り、実施していかなければならない。委員が色々と発言していることが素晴らしいと思う。

【委員】

- ・パークマネジメントシステムを始動していくためには、管理体制を根本的に考えていく必要がある。このため、他事例などを調査・分析する事により、どの様なシステムが良いのかを考える必要がある。このことが主要な柱の部分となり、この柱が出来れば、他の事項も進展する。

【委員】

- ・体制づくりについて、今までは公園の維持管理が中心であった。21世紀の森と広場では、ソフト面でも色々とチャレンジしており、このパークマネジメントプランが必要な時代となってきたと思う。
- ・公園の維持管理部門とは異なる体制にすべきではないか。課の下の担当室レベルではなく、独立した組織として、ソフト部門を含めていく必要がある。職員のやりがいにも繋

がる。

【委員】

- ・西東京市の事例で、みどり公園課の中に協働担当を設けており、ソフト支援を行っている。また、指定管理者側にも、公募の際に協働担当を設けることが条件となっている。市職員は異動されるため、継続的に業務担当を担うことは難しい状況にある。
- ・指定管理者制度を実施していくことなど、色々な事例について、情報を集めることは必要だと思う。

【委員】

- ・東京ディズニーランドでは、何か新しいことを実施するのに、日常的なマネジメントシステムに対して、企画部門と管理運営部門が各々分析している。21世紀の森と広場の場合も、企画部門と管理運営部門を分けていくことが必要である。

【委員】

- ・本公園でのアートのイベントは、行政だけでは動き出さなかった。市民の力が必要であり、行政の方で企画することが出来なかったこともあり、市民が企画・運営した方が上手く動けるものである。市民の後押しが必要である。
- ・この委員会にて、市の担当者からは出てこない言葉が生み出されており、新しい体制づくりには委員の皆さんの協力を得たい。

【委員長】

- ・アートやカルチャーという言葉が出ているが、ファイナンスと連動していないことが問題である。ファイナンスが上手くいくなれば、制度は後からついてくるものである。公園を使ってもらい、リターンを公園に返してもらえれば、新たなベネフィットが可視化される。可視化する舞台が公園であるとする、ハードの施設というものから考えが変化する。ハードという枠を外せばいいのではなく、幅広い使い方の「松戸モデル」となりうる。

【委員】

- ・本市は先駆的な考え方の方が多く住む市である。行政が先駆的に動けば、市民も動き、視野が広い市民が集まることにより、他には無いものが出来るのではないかと。

【委員長】

- ・本日参加いただいている委員の皆さんにも参加してもらい、サポーターチームを創ることについてどう考えるか。

【委員】

- ・委員長からその様に発言いただきありがたいと思う。この思いが萎えない様にしてもらえればと思う。

【委員】

- ・地元の人が積極的で一緒にやりたいと言ってくれることは、今まで行政職員がやってきたことの評価でもある。例えば教育系の行政職員が公園の担当者となった場合、その人脈やノウハウをもって活性化している。業務委託は必要であり、地元の市民と一緒に、先進的な事例を見学することから緩やかに始めてはどうだろうか。本市と同じような状況にある他の自治体と交流し、情報交換することが出来るのではないかと。

【委員長】

- ・ファイナンスの面でイベント開催は左右され、その収益金や寄付金をマネジメントに使

えない制度が課題となる。新たな組織づくりは研究の途上にある。

【委員】

- ・海外の事例として、ニューヨークなどはリスクな都市だが、緑と市民の力で街を再生しようということをして60、70年代からコツコツとやり始め、現在は良いシステムとなっている。公園や緑地の種類によって、マネジメントシステムを変えている等、学ぶことが多い。緑が良くなると、街や人々に良い変化をもたらす、都市をも変えてしまう。積極的な緑化により、荒れた場所を公園にすると、街が良くなり、税収も上がり、よいスパイラルができていく。日本でもこうした視点で考えられると良い。
- ・指定管理などで民間が公園の管理をする際には体制が重要である。緑だけではなく、教育、福祉など色々な分野の方と関わることで公園を活性化できる。
- ・指定管理者制度の内容などについては、行政と地元の方々とのどんな制度・組織が良いのかを一緒に考えていく必要がある。21世紀の森と広場は素晴らしい自然環境である。生物多様性という考え方については国際的にも価値が上がっており、市の発展のカギが自然豊かな21世紀の森と広場ではないかと考えている。みんなで守り、支えていく体制づくりができればよいと思う。

【委員長】

- ・21世紀の森と広場は、美しい自然・快適な自然の価値を大切にすることにより、皆の賛同を得ている。自然の取り組み方として、緑は一つの側面だけではない。
- ・21世紀の森と広場は、この先、次の段階でどのように変化するのだろうか。人とのかわり方が強くなり、常盤平台団地の存在などコンセプショナルな部分が存在する。市の職員は、通常の業務からはみだしてしまうが、共存共栄の場があれば入っていけると思う。

【委員】

- ・松戸愛を感じる。21世紀の森と広場のことを身近な存在として感じたのは、この委員会が契機である。少しでも良くしようとする思いを持った人が集い意識して、少しずつでも、熱い価値観でつくり上げることが大切である。
- ・障害を持っている弱者にとっても、皆の公園でなければならない。21世紀の森と広場のサポーターとなるのが出来ればよいと考えている。
- ・行政の方は多忙であり、全て行うことは出来ないと思うが、少しでも思いが有る人が集うチームが出来ればよいと思う。

【委員】

- ・学生時代に、先進事例として21世紀の森と広場を訪れたことを覚えている。この公園はポテンシャルが高く、世界に誇れる資源であろう。今後、次につなげる一歩として、まず予算付けをして、それが途切れないようにしていただきたいと思う。市職員も、楽しく仕事ができるように、地域の方々と一緒に仕事を進めていってほしいと思う。21世紀の森と広場はそういったコミュニティを形成する場ともなるのではないかと。

【委員】

- ・パークマネジメントプランが出来たので、多くの市の職員の中からもいい人を見つけて、実施する実行部隊を創ってもらいたい。本市が新しい動向に合った先進事例になるのではないかと。

【委員】

- ・改めて驚く。何十年も前に21世紀の森と広場を創ろうとして、幸いにも今まで市が管理

してきたから、今の姿がある。市の職員はそのことに誇りと自信を持ってもらいたい。

【委員】

- ・パークマネジメントプランの中で、新しい場を早速創ってもらいたい。委員会の委員も加わり、市民と一緒に、まちを良くすることを考える必要がある。本市にこれだけの公園があることを、広く知ってもらい、ポテンシャルがあるので、それを伸ばしてもらいたい。

【委員】

- ・集客ありきの仕事をしていたので、違う側面から気が付くことも多く大変勉強になった。私は今の21世紀の森と広場で不足は無く、よくこれまで守ってこられたとも思う。
- ・一方世の中としては、バリアフリーやSDGsなどの視点も必要となってきた。益々魅力あるものにするため、パークマネジメントプランを活かしていく組織づくりをお願いする。このパークマネジメントプランは、実際のフィールドで活かせるようにしていかななくてはならず、そのお手伝いもしたいと思う。

【委員長】

以上、この案を正式にパークマネジメントプラン案とすることについて、異議はあるか。

→異議なし

2. 答申書案について

【事務局】

- ・前回のワーキンググループからの修正点として、別紙の文言でパークマネジメントプラン案の文中の文言と一致するように修正した。

【委員長】

この案を答申書案とすることについて、異議はあるか。

→異議なし

3. その他

【事務局】

- ・今期委員会での諮問事項については、本日の答申を以って一区切りとなる。成案までの進捗など、プランに関して、適宜報告する。

【委員長】

- ・本日の議事は終了する。